

# Absolute5

アブソリュートファイブ

第五地連 事務局：墨田支部

発行責任者：斉藤幸司

墨田区東向島 5-9-11

TEL&FAX 3610-0397

e-mail [seisousumida@juno.ocn.ne.jp](mailto:seisousumida@juno.ocn.ne.jp)

## 「参加して良かった」の声多く



### 2024 年度宿泊学習会 青年部員の参加増

2月2日から3日にかけて、今年度の宿泊学習会を鬼怒川パークホテルズで開催しました。参加者は、青年部13名を含め、全体で39名でした。前回よりも4割ほど参加数が増加し、大いに学び、大いに交流、実りある学習会となりました。

今回は、①地連内支部の労働条件や支部運営などを共有する。②他ブロック区や他都市の先進的な取り組みに学ぶ。③我われを取り巻く情勢と課題を共有し、互いに学び、交流し、横のつながりを強化する。を目的に開催しました。

▲ 新入組合員も含め全ての収集運搬支部から青年部員が参加した

はじめに主催者を代表して星野議長から「宿泊だからこそ他支部との距離が縮まる。自分のこと、支部のこと、組織全体のことなど、遠慮せず積極的に交流をしてほしい。」と挨拶がありました。斉藤事務局長から、本学習会の基調提起を受けた後、多田中央執行委員長から「都市清掃におけるこの間の主な課題」と題した講演をいただきました。清掃事業をとりまく全国的な課題を①災害時の対応、②ごみ減量、③プラスチックの資源化、④人材確保、⑤その他、としてまとめ、あらかじめ我われが清掃労働者として、また労組として準備をしておく、そして労使協議をしておかなければならない課題についてお話いただきました。

## 今こそ「再直営化」を

特に家庭ごみの有料化については「23区でできるわけがない」と楽観して放置していたら、いざという時に手遅れとなって「ただの有料化」として実施されてしまう。なぜ反対なのかをしっかりと議論して備えておかなければならない、と強調されました。

そして人材確保の課題では、収集運搬の「再直営化」にむけて、しっかりと根拠を挙げられ、再直営化は決して夢物語ではなく、むしろもう再直営化しかないのだと認識することができました。

いづれも重い課題であるにも関わらず、かみ砕いてわかりやすくお話を下さり、参加者一同、貴重な学びとなりました。



▲ ユーモアも交えてとてもわかりやすかった多田委員長の講演

今回は前回参加者から多くあげられた「分散会の時間が足りなかった」との意見を踏まえ、多田委員長の講演以降はすべて分散会討論の時間とし、事前に参加者(支部)が知りたいこと、そしてその回答を集約するといふ初めての試みをしました。また、集約された資料を基に、支部で話し合いをして意思統一していたことで、本番前に一度話し合いの場が持てることもメリットと考えました。

手元に資料がある形での分散会は、報告をしやすいいし、聞く方も理解しやすい、そしてメモを取る際もすぐそこに書き込むことができて好評でした。

笑い声があがっていた班もあり、日頃は口に出せないような職場での不満なども含めて6つの分散会すべてでぎっくばらんに話し合うことができました。

夕食交流では、支部ごとに全員がマイクを持って自己紹介し、顔と名前を知ってもらい、その後の部屋交流に移りながら、支部内、他支部問わず大いに交流し、連帯を強化することができました。

(裏面へ続く)

# 青年部員「宿泊だから熱心に意見を言えた」

## 横のつながり強化を確信

## 次回にむけて支部から意見を



化され、つい聞か  
れていない余計な  
ことまで話してし  
まい。申し訳なか  
った。「今日は泊り  
だから今こままで  
熱心に意見を言っ  
ている。そうでな  
かったら帰りが気  
になって集中でき  
ていない。」と言っ  
てくれた青年部の  
仲間がいて感動し  
た。

我われ50歳以  
上と今の若い人で  
は社会状況が違う。  
コロナ禍以降、宴会文化は衰退  
しているし、共働きが多く、仕  
事・家庭・運動のワークライフ  
バランスを考えるのが当たり前  
の時代。青年部に「宿泊ありき」  
を押し付けるつもりはない。今  
回の討論を踏まえ、支部青年部  
で議論、それを地連青年部にあ  
げて話し合い、泊りではない形  
で実施するならばそれは素晴らし  
いこと。みんな話し合い、みん  
なで決めることが一番大事であ  
る。

また、参加者それぞれ、わから  
ないままモヤモヤが残っている  
ように見えた。そうした課題を  
それぞれ支部で確認し、あらた  
めて今日と同じメンバーで分散  
会をやってみる。宿泊でなくて  
もそういった取り組みを考えて  
みたかどうか。支部や地連の基  
本組織がやっていることをなぜ  
必要はない。自分たちに何が  
必要で、必要なものを得るため  
にはどう活動するのか、そうい  
う観点で考えれば見えてくるも  
のがあると思う。皆で話し合  
い、色々な検討をして方針化してほ  
しい。

全体的に、積極的に意見を交わ  
す姿、笑いあっている姿が多く  
見受けられた。若い仲間だけで  
はなく、全体的に交流ができて、  
横のつながりが強化できたこと  
は確信している。持ち帰って参  
加者や支部で話し合っ、常任  
委員を通じて2月の総括会議に  
次回にむけて意見を挙げてほし  
い。」と報告されました。

最後に星野議長の力強い団結  
頑張ろうで締め、前回以上の成  
果を感じながら成功裡に終える  
ことができました。

青年部から「楽しかった」「来  
てよかった」との声もありまし  
た。2日間をかけてとことん学  
ぶこと。帰りを気にせず、ひざを  
突き合わせてとことん交流をす  
ることで仲間が増えることは生  
涯の財産となります。次年度が  
実りある開催となるよう、地連  
と各支部と一緒に検討していき  
ましょう。

2日目は、引き続き分散会  
を行い、各分散会から代表者  
が特徴点を報告し、斉藤事務  
局長から全体のまとめが報告  
されました。「分散会では、資  
料に書いてあることをただ読  
み上げるのではなく、そのう  
えで気になったこと、知りた  
いことを積極的に声に出して  
話し合っていた。青年部が熱  
心に討論をしていることに感

2日目は、引き続き分散会  
を行い、各分散会から代表者  
が特徴点を報告し、斉藤事務  
局長から全体のまとめが報告  
されました。「分散会では、資  
料に書いてあることをただ読  
み上げるのではなく、そのう  
えで気になったこと、知りた  
いことを積極的に声に出して  
話し合っていた。青年部が熱  
心に討論をしていることに感

